

## 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 地層処分技術ワーキンググループ（第22回）

○ 日時 : 令和5年1月24日（火曜日）17時00分～19時00分

○ 場所 : オンライン

### 出席者

（委員）

徳永委員長、長田委員、下司委員、小高委員、竹内委員、遠田委員、長縄委員、新堀委員、野崎委員、長谷部委員、山崎委員、山元委員、吉田委員

（事務局）

下堀放射性廃棄物対策課長、北村放射性廃棄物対策課長補佐  
原子力発電環境整備機構（NUMO） 梅木理事、兵藤部長

### 議題

文献調査段階における評価の考え方について

### 議事概要

#### 1. 要件の具体化へのご意見

- 科学的特性マップが公表されて以降、活断層に関する研究は進展しているので、再考してはどうか。
- 断層破碎帯に関する説明などの専門用語については、一般の方にも理解いただけるよう整理されてはどうか。
- 新規火山発生について、確立された評価手法はないものの、現在どの程度のことと言えるのかを確認することは重要。
- 火山の中心の場所については、火山の数え方に起因して変わりうることから、客観的な基準を決める必要がある。
- 大陸棚のような沿岸域では、侵食に関するデータが限られることが予想されることから、どのようなデータを用いて評価していくかを具体化されたい。
- 沿岸底では、メタンハイドレートなどの資源が考えられる。定性的な記載にならざるを得ないが、これらについて記載してはどうか。
- 「近年稼働していた鉱山」という表現について、「近年」の時間スケールについて説明が欲しい。
- 鉱物資源の基準案について、現在の経済性、技術性で判断されているが、将来的なことも含めて考えてみてはどうか。

#### 2. 評価の考え方の全体に対するご意見

- 地層処分の埋設深度について、「海水準変動に伴う侵食量が10万年以降に不確実性が増大するとされている100メートル程度の深度よりは十分に大きい」と記載があるが、それよりも法定深度が300メートル以上であることを積極的に記載してはどうか。
- 「地層の著しい変動」に関する評価について、文献調査と概要調査の仕分けをどうするかを説明して欲しい。
- 議論の前提となる放射性廃棄物が10万年後にどのような状態になるかが示されると、全体像を理解しやすくなる。
- 最終処分法で定められた要件がどのような理由で設定されており、要件を満たさない場合にどのような影響があるかを説明することが、要件を具体化する上で重要となる。
- 液化プロパンの備蓄やリニア新幹線でも、地下掘削に伴う環境アセスメントが行われているので、最近の事例として整理しておくが良い。

### **お問い合わせ先**

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課

電話 : 03-3501-1992

F A X : 03-3501-1840